

三重県大紀町野原における安心・安全な里づくりのための支援活動の報告

生物資源学研究科 共生環境学専攻

教授 福山薫

地域の安心と安全は、地域の持続的な発展と防災力の向上が不可欠です。当研究室では、こうした考えの基に、防災ハザードマップ作り等の地域に根ざした研究活動を実施してきました。三重県大紀町の錦地区や野原地区での災害に強いまちづくりに結び付く、過去数年の協働研究活動が契機となり、本学生物資源学研究科と大紀町は2008年11月に相互友好協力協定を締結しました。

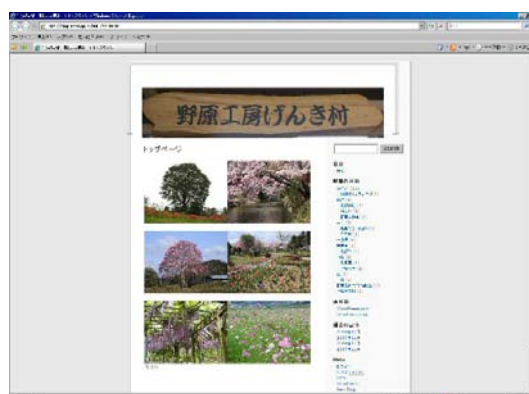
大紀町の東北部に位置する野原区の人々は「野原村元気づくり協議会」を結成し、「地元学」のテーマのもとに、地域の持続的な発展を目指して積極的に活動しています。「あれがない、これがない」という「ないものねだり」ではなく、「あれもある、これもある」という「あるもの探し」を、各種のワークショップを通して「地元学」を実践しています。

また2007年12月より、大紀町防災安全課の支援のもとに、当研究室と同地区は防災訓練を共同で実施し、まちの防災力の向上に関してさまざまな有益な知見を得るなど、大きな成果を上げてきました。

2009年度には三重大学の地域貢献活動支援制度の支援を受け、三重県大紀町野原区で、以下の2つの活動を行いました。一つは、『持続的な発展』を目的とした「野原工房げんき村のブログ」の作成です。もう一つは、区内の『防災力向上』を目指した住民による「まち歩き」と「ハザードマップの作成」の活動です。

1. 野原工房げんき村のブログの作成

野原区には、義務教育創設の父である大瀬東作や県の天然記念物である「お葉つきいちよう」など、外部に自慢できるさまざまな地元の名物があります。こうした事物の情報やさまざまな行事に関する、地域での知識の共有や外部への積極的な広報手段として、ブログを準備しました。



野原区 げんき村ブログ(<http://blog.mobmap.jp/taiki/contents>)

ブログ作成では、システム構築とデータ入力を当研究室が、必要な情報や写真を野原区自治会および協議会から提供していただき、双方の積極的な協働作業を行いました。本ブログはすでに仮運用中で、誰でもインターネットを介して閲覧することができます。大紀町役場に同ページを紹介してもらい準備も進めており、野原区の公式ページとして利用していただく予定です。この活動を通して、地域内の情報を地域で共有するだけでなく、外部にも常にさまざまな情報を広報できる場を作成できました。

2. 住民によるまち歩きとハザードマップの作成

2007年から大紀町防災安全課の支援のもと、当研究室と同地区が共同で地震や気象災害に備えた防災訓練を実施してきました。2009年度は、前年の地理情報システムとQRコードを連携させた新開発の安否確認の訓練に加えて、住民が自分の町の危険性や安全性を確認・理解するためのまち歩きと、それを基にした住民自らによるハザードマップ（防災地図）作成を行いました。この活動は2回に分けて行われ、12月7日の防災訓練の日には、まち歩きと防災訓練、防災地図作りを実施しました。



左:住民による町の危険性・安全性を確認しながらのまち歩き。

右:まち歩きの成果や従前より持っている情報を反映させたハザードマップの作成。

この日の成果を研究室に持ち帰って整理し、数値地図化して、より分かりやすく使いやすい防災地図を再作成して、2010年1月23日に区内で成果の報告・検討会を行いました。両日とも、三重大学から10名以上の参加と、約100名近い地区住民の皆さんが出席しました。

防災力向上の側面からみると、上記の活動で得た知見やデータは、まちの情報を常に最新に保ち続けることができます。したがって、もしものときの災害時に、支援・救援や復旧・復興のための基礎資料となるだけでなく、正確な被害把握や分析に利用でき、きわめて有益なものとなるでしょう。本事業を通して、この地区の自然・産業・文化・歴史等の現存する資源や資産を活かした地域の『持続的な発展』と『防災力の向上』に貢献できたと考えます。

今後は、積極的に地区を訪問してヒアリングを行うことによって、地区が持つ強みと弱みを住民の皆さんとともに理解して、活動を継続していきたいと考えています。また、防災や住民活動だけではなく、農業・林業・水産・畜産等の地元産業がかかえる問題点の調査研究をはじめ、地域の発展や人材の育成を目指した地元と一体となった活動の展開を検討していく予定です。

本事業の推進にあたり、三重大学はじめ大紀町防災安全課、大紀町野原区自治会、野原村元気づくり協議会、および野原区の住民の皆さんのほか、多くの方々にお世話になりました。この場を借りて深くお礼申し上げます。